

教育目標	ふるさとに誇りをもち、心豊かにたくましく生きる子どもの育成		総合評価
運営方針	・地域や家庭との協働を図り、児童一人一人を深く理解し、個性や特性を生かした指導に努め、確かな学力を身に付けさせるとともに、全教職員の共通理解のもと明るく楽しい学校づくりに取り組む。		
27年度の成果と課題	重点課題	具体的目標	
<p>【成果】</p> <p>○いろいろな活動の機会をもち、チャレンジカードなどを使ったり、個人の能力に適した指導を行うことができた。</p> <p>○ICT機器を活用した先進的な授業や、その成果としての学習意欲の向上が見られた。</p> <p>○授業改善と共に家庭学習の見直しなどによる成果もあり、全国学力・学習状況調査においても、全国平均より高い結果になった。</p> <p>○学校では、ボランティア（読み聞かせ）の協力・図書を取り組みもあり、本に興味を示す姿が見られた。</p> <p>【課題】</p> <p>●スポーツテストの結果から、児童の実態を把握できたが、効果的な体力の向上法について共有できなかった。体育の時間の導入などを利用して、継続的に苦手な部分を伸ばすことを考え、運動能力の向上に努めたい。</p> <p>●自尊感情や自己有用感の高まりを促すために、教育活動全体を通じた活動を実施していく。</p> <p>●児童の学校での読書量は向上してきたが、家庭における読書の充実が課題である。</p> <p>●命や安全に対する意識向上を大切にしながら、学校、地域、保護者と協働した取り組みを行い「開かれた</p>	<p>(豊かな心)</p> <p>・基本的な集団生活の習慣や善行を進め、生活の向上を図る。</p>	<p>・道徳教育や人権教育を大切にし、温かい心を育てる。</p> <p>・気持ちのよい「あいさつ」や「返事」ができる習慣をつける。</p>	A
	<p>(確かな学力)</p> <p>・学力の定着と向上を図り、主体的に学習できる子どもの育成を図る。</p>	<p>・繰り返し学習することや日常生活と関連付けて考えることで、学習内容の確実な定着を図り、「できた」喜びを感じさせる。</p> <p>・学校生活の様々な場面で「言語活動」を取り入れながら、思考力・判断力・表現力等を育てる。</p>	
	<p>(健やかな体)</p> <p>・体力向上を目指し、運動に親しむ態度を育成する。</p>	<p>・意欲的に体を動かし、十分な体力を備えた児童を育てる。</p> <p>・基本的な生活習慣を確立する。</p>	
	<p>(地域・家庭(ふるさと))</p> <p>・開かれた学校を目指し、学校と地域の連携・協働を進める。</p>	<p>・地域学習を深化し、ふるさとのよさに気付かせる。</p> <p>・様々な手段を通して、情報発信に努める。</p>	

評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果分析)及び改善方策	
豊かな心	・道徳教育や人権教育を大切にし、温かい心を育てる。	・あったかカードの取組等、教育全体を通して自主性や自尊感情を高める取組をし、学校独自のアンケートで伸びを計る。	A	A	毎月の人権の目標とリンクしてあったかカードを書いた。運動会を始めとして、主体的に取り組める活動を進めた。アンケートでは主体性も自尊感情も伸びが見られた。	豊かな心は、日々の生活の中で高まり、また低くなってしまふ。教師はあらゆる場面においてアンテナを張り、常にマナーにならないように気をつけながら取組を行っている。また、道徳教育は学習から、日々の活動へと深化させていきたい。	先生方の日々の取組の成果が、普段の子どもたちの様子や、掲示物から伝わってくる。今後さらなる取組をしてほしい。
		・毎月の人権目標に合わせて学校全体で話し、更に学級での人権点検を進め、QJを基に学級づくりに生かす。	A		人権の目標に合わせた教師の講話は、工夫されたものであった。その後学年に合わせて話をすることができた。年3回QJを使って学校全体で話し合いが進められた。		
		・道徳の研修や研究授業を計画的に行い、児童が自らのよさや可能性を伸ばせるようにする。	B		道徳の研修や計画的な研究授業を行い、授業については分かるようになってきている。日々の生活に生かせるところまではまだ不十分である。		
豊かな心	・気持ちのよい「あいさつ」や「返事」ができる習慣をつける。	・全校朝会、生活部の話、学級指導などで気持ちのよいあいさつ、返事の継続を呼びかける。	A	A	ビデオで具体的なあいさつの仕方を提示するなど、年間を通して、気持ちのよいあいさつの呼びかけを意識することができた。返事を意識した話し方のくふうを継続して行えた。	自分からあいさつをするテーマをもったあいさつ運動を、年間を通して行っていく。事後指導で、児童1人1人が感じたことをふりかえる機会を設ける。	
		・児童会の「あいさつ運動」の中で児童の模範演技を提示して、気持ちが伝わるあいさつの仕方を考えさせる。	B		決まった時や場所では、あいさつをする習慣ができてきたが、相手を意識して、自分からあいさつをしようとする態度を育てる必要がある。		
確かな学力	・繰り返し学習することや日常生活と関連付けて考えることで、学習内容の確実な定着を図り、「できた」喜びを感じさせる。	・授業チェックシートを活用し授業力を向上させる。	A	A	自主公開授業を実施することができた。授業チェックシートを活用することで、改善点を絞り込み授業づくりに生かすことができた。	個々の学習意欲、学習能力を高めるための取組。基礎学の取組を学校で統一していく。	子どもだけでなく保護者も同じ時間に読書するような働きかけがあるとよい。毎年課題となっているところであるから、アンケートの取り方を工夫してどのようなおうちでは本を読んでいるのか、どんな種類の本を子どもたちは読んでいるのかといった把握ができることよりわかりやすいのではないかな。
		・基礎学力が仏を充実させるとともに、家庭と連携しながら家庭学習への取組も充実させ、基礎基本の定着を図る。	B		基礎学タイムでは、プリントなどを活用し、基礎学力の定着に努めた。懇談等で家庭学習の様子や内容に関して意見交流ができた。		
		・様々な場面でグループやペアでの話し合い活動を取り入れる。	A		ペアやグループでの学び合いの機会をもち、互いの考えを共有したり、話し合ったりする機会をもてた。		
確かな学力	・学校生活の様々な場面で「言語活動」を取り入れながら、思考力・判断力・表現力等を育てる。	・読書活動の充実。国語科の並行読書や家読(うちどく)を勧める。	B	B	並行読書を行いやすいよう教科書に紹介されている本を学級に置くようにした。家庭学習で家読を推進し、読書習慣の定着を図った。	ICTを活用した他校との合同学習で自己表現力等を育てる。家読は家庭と協力し、カードに書き込むなど足跡が残る取り組みを学校で統一していく。	
		・問題解決型授業を通して、自ら考え、学び合う力をつける。	B		まだまだ子どもが受け身の授業構成が多く、少しずつ授業に取り入れてはいるが、主体的に問題解決ができるまではできていない。		
確かな学力	・問題解決型授業を通して、自ら考え、学び合う力をつける。	・授業モデルシートを活用する研修等を行い、授業力の向上を図る。	B	B	授業モデルシートにある問題解決型授業はスタイルとして定着している。ただ、研修等を行い深めることができなかった。	研修や自主公開授業の回数を増やす等して、よりよい問題解決型の授業を模索していく。	
		・児童の実態に合わせて、主体的に問題解決ができる授業作りをしていく。	B				
健やかな体	・意欲的に体を動かし、十分な体力を備えた児童を育てる。	・全校運動の時間を設定し、外遊びチャレンジ等に取り組む。	A	A	ハッスルタイム等を習慣的に行うことで、業間に外で遊ぶ児童が増えた。	遊びの中で体力の向上を図れる仕掛けを考え、その環境を整える。	子どもたちの体力で弱いところは何が原因なのかを分析していくことで次の取組に生かせる。
		・オリジナル整理体操を全校で考え、授業や行事で活用する。	A		各学年でアイデアを出し合い、学校独自の整理体操ができ、授業や行事で活用できた。		
		・スポーツテストの結果から児童の実態を把握し、効果的に体力の向上を図る。	B		スポーツテストの結果から、実態を把握し、全校で体力の向上を図った。体育の授業でも向上に向けた取組をすべきであった。		
健やかな体	・基本的な生活習慣を確立する。	・基本的な生活習慣を自ら見直すことができるように、生活を振り返る場を繰り返しもたせる。	A	A	生活チェックカードを長期休み後に行ったことで、自らの生活をみつめるきっかけとなり、規則正しい生活を送ろうとする意識を高めることができた。	家庭への啓発を十分行い、一体となって生活習慣の改善に取り組む。	
		・ストレスについて正しく理解し、上手につき合うことができる力を育てる。	B		ストレスに関する研修は行ったが、その効果について児童に十分伝えきれなかった。		
(地域・ふるさと)・家庭	・地域学習を深化し、ふるさとのよさに気付かせる。	・地域教育力を導入しながら、『ふるさと』を題材とした学習を進める。	A	A	生活科・総合的な学習の時間等で問題解決的学習を通して目的を設定し、課題解決しながらまとめ共有することができた。地域(人々、自然、歴史など)と児童との絆を深めることができた。	日々の学習活動で地域と連携・協働することで様々なことを学び、ふるさとを誇りに思う心、地域の人々となつながら心等を育てる取組を充実させる。	地域のひととふれあうことで子どもたちや学校について知る機会となった。今後、回覧板などに学校から出している通信など様々な情報を回すことで、さらに地域への発信となっていくであろう。
		・様々な手段を通して、情報発信に努める。	A		学校通信を充実させ、学校の思いを伝えていった。また、ブログを月6~8回更新し、低中高の取組を報告できた。		

※学校評価計画表については、太枠内を記入